

## 令和7年度第3回経営会議 会議概要

### 1 開催日時

令和8年1月20日（火） 14:00～15:10

### 2 場 所

本部棟3階 大会議室

### 3 出席者（委員12名中11名出席）

学外委員：谷村委員、木村委員、菅原委員、谷藤委員、浅沼委員、大矢委員  
（欠席：中田委員）

学内委員：石堂委員、鈴木厚人委員、鈴木俊昭委員、亀田委員、高橋委員  
その他、理事、各本部長、各学部長、各室長及び関係職員が出席。

### 4 審議事項及び審議結果

#### (1) 第四期中期計画の変更（案）について

変更案について、亀田委員から説明し、質疑を経て、原案のとおり承認された。

### 5 その他

#### (1) 授業料減免に係る判定誤りについて

事務局から説明した。

#### (2) 岩手県立大学紹介動画「ArchTV～地域に未来に多様なアーチを～」視聴

事務局から資料に基づき説明した。

説明後、動画を視聴した。

#### (3) その他

岩手県立大学関連記事について、事務局から資料に基づき紹介した。

また、机上配布資料として、国連アカデミック・インパクト活動報告書2024について紹介した。

### 6 意見・質問に対する回答等

学外委員の意見・質問等に対する学内委員及び事務局等の回答等は、次のとおり。

#### ● 語学科目について（審議事項（1）関連）

ロシア語を廃止しトルコ語が新たに加わった理由について質問された。

これに対して、ロシア語は現在担当教員を採用しておらず、担当教員のいる言語や文化の科目を優先して設定している。トルコ語は、アジア社会とヨーロッパ社会の懸け橋である観点から設置した科目であり、基盤教育においては、言語を専門にすることだけ

ではなく、社会や文化の内容を含め科目設定している旨回答した。

- **中間評価の実施について（審議事項（1）関連）**

今期の中間評価実施の有無について質問された。

これに対して、中間評価は実施せず、中期計画の評価は、計画が4年間経過後、その実績に基づき6年間の実績見込みを大学でまとめ、県の評価委員会に評価いただく形となる。

なお、今回の変更については、この指標に基づいた4年間の実績と自己評価を整理し、再来年の初めに県に評価を受ける形となる旨回答した。

- **第三期における国際交流及び国際貢献の指標との関係性について（審議事項（1）関連）**

第三期における指標と今回設定された新たな指標とを比較して、どのように変化したか質問された。

これに対して、第三期は新型コロナウイルス感染症拡大の前であり、海外への派遣プログラム等で派遣した学生数は今回設定した目標値より多かったが、近年は、国際情勢や経済状況が大きく変化していることから第三期の数値を目指すのではなく、令和5、6年度の実績を踏まえた目標値としている旨回答した。

また、語学教育及び国際教育に関する学生アンケートについては、アンケートの内容を見直しており、評価の段階数や対象科目を変更したことから、第三期の目標値と比較は難しい旨併せて回答した。

- **国際文化交流事業及び留学制度を活用する学生数について（審議事項（1）関連）**

近年、国際上様々な問題がある中で、国際文化交流事業及び留学制度を活用する学生数 600人以上という目標値の達成は可能か質問された。

これに対して、目標値は令和5、6年度の実績より設定した現状維持ベースの数値であること、また、本来は令和5、6年度は厳しい状況での数値であったため、伸ばしたいところだが、国際情勢や円安等の状況も踏まえ、今よりも大幅に増える前提の目標値とはしておらず、達成に努めたい旨回答した。

- **授業料減免制度における契約について（その他事項（1）関連）**

契約書における契約不適合責任の条項の記載の有無について質問された。

これに対して、令和3年度のプログラム導入委託時の契約書において、契約不適合責任の条項は記載していたが、今回の処理は現在の契約書上のその他事項により協議した旨回答した。

- **令和8年度入学者選抜の動向について**

今年度の入学者選抜における受験者の動向について質問された。

これに対して、実施済みの総合型選抜及び学校推薦型選抜についてはほぼ例年並みである旨回答した。

以上